

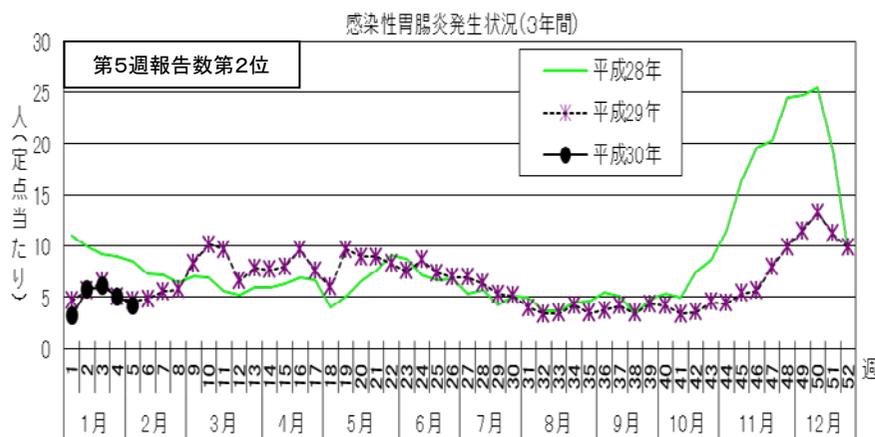
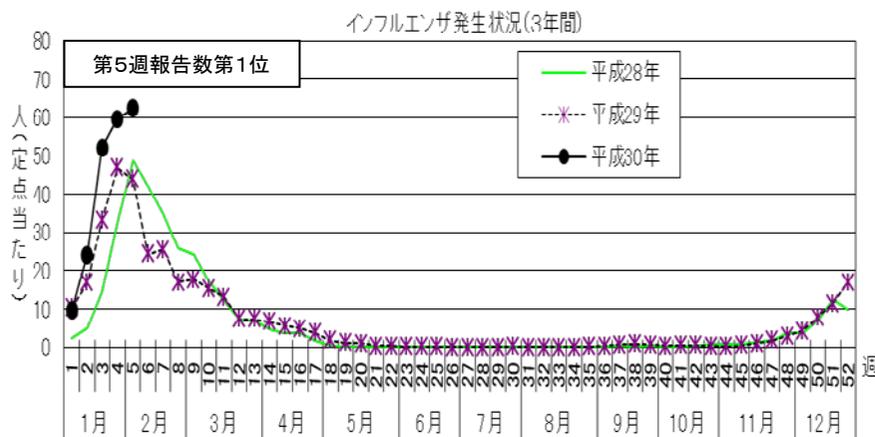
# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年1月29日（月）～平成30年2月4日（日）〔平成30年第5週〕の感染症発生状況

第5週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。  
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は62.43人と前週（59.77人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。  
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.24人と前週（5.05人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.38人と前週（2.19人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

★インフルエンザウイルス★  
インフルーくん



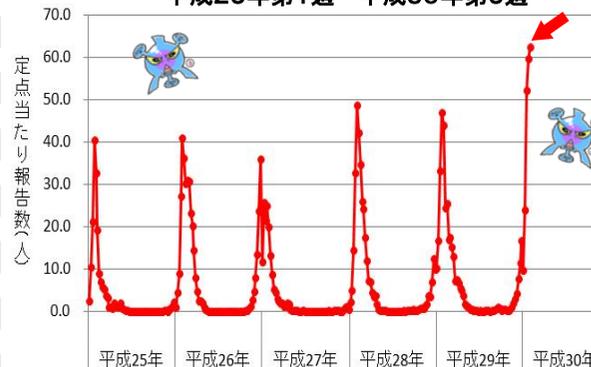
## インフルエンザ猛威続く！～過去最多の報告数を更新～

川崎市では、インフルエンザの平成30年第5週（1月29日～2月4日）の定点当たり報告数が62.43人となり、現在の調査方法となった平成11年以降、2週連続で過去最多の報告数を更新しました。年齢階級別では特に14歳以下の子どもの患者数が多くなっており、今シーズンは全国と同様、A型インフルエンザに加えて、B型インフルエンザの流行もみられています。

なお、国立感染症研究所の報告によると、B型インフルエンザの山形系統、ビクトリア系統ともにワクチン株と抗原性は類似しているとのこと。

引き続き、手洗いや咳エチケット等の予防対策を心がけましょう。

川崎市におけるインフルエンザ発生状況  
—平成25年第1週～平成30年第5週—



川崎市におけるインフルエンザ年齢階級別発生状況  
—平成30年第1週～平成30年第5週—

